

令和2年9月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,506	8,781	4,476	4,305	△ 5	△ 23
2 千 石	4,076	6,845	3,449	3,396	△ 3	0
3 内 山	5,837	8,013	4,243	3,770	△ 10	△ 7
4 大 和	3,461	6,720	3,308	3,412	△ 22	△ 24
5 上 野	7,432	15,523	7,708	7,815	5	7
6 高 見	7,395	13,421	6,405	7,016	△ 12	△ 22
7 春 岡	7,059	11,124	5,820	5,304	12	25
8 田 代	11,566	21,929	10,587	11,342	△ 6	△ 6
9 東 山	10,486	19,552	9,648	9,904	△ 4	△ 1
10 見 付	4,342	8,074	4,087	3,987	△ 10	11
11 星 ケ 丘	3,573	6,982	3,165	3,817	△ 1	13
12 自 由 ケ 丘	3,549	7,165	3,269	3,896	△ 2	△ 9
13 富 士 見 台	6,490	15,285	7,090	8,195	△ 6	7
14 宮 根	3,881	8,183	3,889	4,294	2	△ 12
15 千 代 田 橋	3,712	8,436	3,968	4,468	1	△ 5
千 種 区 計	88,365	166,033	81,112	84,921	△ 61	△ 46
R1.9.1	87,561	165,748	80,988	84,760	△ 93	△ 80
対 前 年 比	804	285	124	161	32	34
名 古 屋 市	1,128,677	2,329,628	1,150,007	1,179,621	426	△ 84
愛 知 県 (R2.8.1)	3,269,083	7,547,003	3,775,882	3,771,121	403	△ 2,191

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	97	125	△ 28	849	867	△ 18

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の地価の推移

今回は、令和元年版名古屋市統計年鑑を基に、名古屋市および千種区の平成 22 年から令和元年の住宅地と商業地の地価についてみてみます。

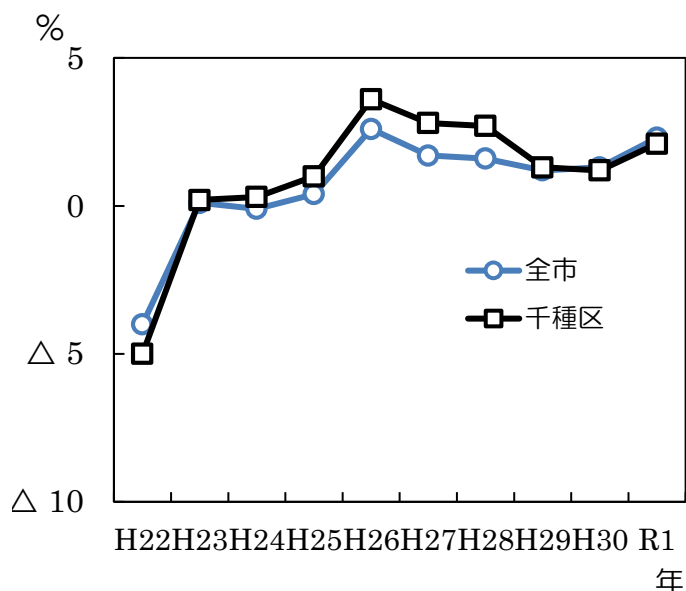


図 1：住宅地地価変動率の推移
(平成 22 年～令和元年 1 月 1 日現在)

まず、千種区の住宅地の地価の変動率（前年から継続した調査地点の価格の対前年変動率の単純平均値）をみると、平成 20 年のリーマンショックに伴う景気悪化の影響により、平成 22 年までは -5.0% と下落しています。平成 23 年以降は持ち直してプラスになり、平成 26 年には 3.6% のプラスとなっています。千種区の令和元年の地価変動率は 2.3%（前年 1.3%）で、これは全 16 区中 9 位となっています。

さらに、住宅地の平均地価をみると、千種区の地価は 2439 百円/㎡で、名古屋市全体の 1831 百円/㎡よりも高くなっています。この数値は、全 16 区中 4 位という順位になっています。

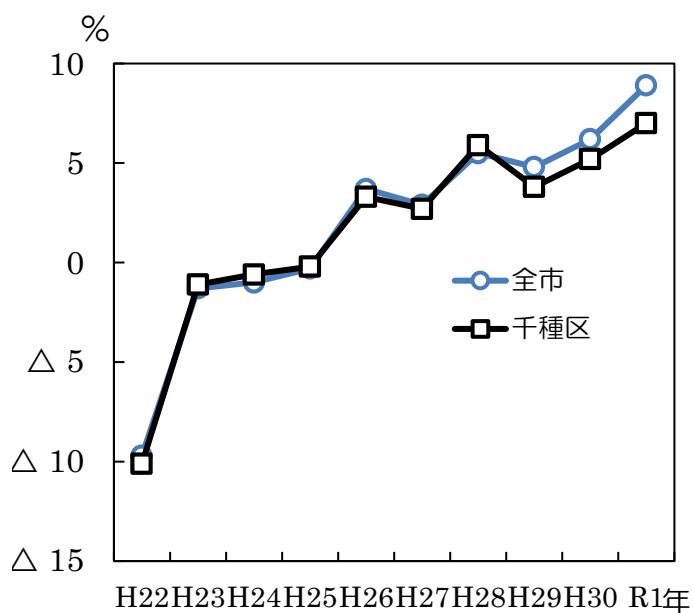


図 2：商業地地価変動率の推移
(平成 22 年～令和元年 1 月 1 日現在)

次に、商業地の地価の変動率をみると、平成 22 年から平成 25 年までマイナスが続いていますが、平成 26 年にプラスに転じています。令和元年の千種区の地価変動率は 7.0%（前年 5.2%）であり、この数字は全 16 区中 6 位となっています。

さらに、商業地の平均地価をみると、中村区（22,704 百円/㎡）や中区（15,832 百円/㎡）が平均を押し上げているため、千種区の地価（4,189 百円/㎡）は名古屋市全体（8,446 百円/㎡）よりも低くなっていますが、千種区の地価は全 16 区中 5 位という順位になっています。